

| | |
|--------|--------------------------|
| 目指す学校像 | 一人ひとりのよさが輝き 笑顔と元気があふれる学校 |
|--------|--------------------------|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | 1 主体的で互いに学び合う授業の創造 2 安心・安全で美しい教育環境の整備 3 家庭・地域と連携・協働し、開かれた学校づくり 4 教職員の協働・協力体制の確立と指導力の向上 |
|------|---|

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
 方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | | | 学校運営協議会による評価 | |
|-------------|---|--------------------------------|--|---|-----------|-----|--------------|---------------------|
| 年 度 目 標 | | | 年 度 評 価 | | | | 実施日令和 年 月 日 | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 |
| 1 | 〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査では、全ての教科で全国、県、市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○市学習状況調査・生活習慣等に関する調査結果の分析から、話し合い活動を通じて、相手の考えを聞き、自分の考えを伝えることができると肯定的に回答した児童の割合が高い。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の国語において、全国及び市平均と比べ、無回答率が高い傾向にある。 ○市学習状況調査・生活習慣等に関する調査結果の分析から、新しい問題に出合った時に解いてみたいと回答した児童の割合が低い。 | ・主体的で互いに学び合う授業の創造 | ①全教科を通して、相互の意見を交流し、自分の考えを深める協働的な学びを推進する。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自ら採点して学習状況を把握し、学びの自律につなげる。 ③全教員が教科等の学びを深める ICT を活用について、教材研究し、授業改善を図る。 | ①②学校評価・児童アンケートの関係する項目において、肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ③教科等の学びを深める ICT を活用した授業公開を、全教員が実施したか。 | | | | |
| | | ・小・中一貫教育の推進 | ①9年間を見通した安全教育を軸とした学校課題研究に取り組み、各教科等において実践する。 ②関係校と連携し、小・中一貫教育の推進を図る。 | ①学校評価・教職員アンケートの関係する項目において、肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ②関係校の児童生徒が協働的に学ぶ機会を設けることができたか。 | | | | |
| 2 | 〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査及び市学習状況調査の質問紙調査結果の分析から、学校に行くのが楽しいと肯定的に回答した児童の割合が高い。 ○学校評価結果の分析から、学校での生活が毎日楽しい、学校に仲の良い友達がいると肯定的に回答した児童の割合が高い。 〈課題〉 ○児童一人ひとりの状況を的確に把握し、組織的に相談・支援する体制づくりを継続する必要がある。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、児童自らが危険を予測したり、回避したりする力を育む必要がある。 | ・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた体制の充実 | ①毎月の生徒指導・教育相談部会を軸とした児童への支援を継続的に行う。 ②毎月の学校生活に関するアンケートの実施及び見取りを確実に実行し、適切な支援につなげる。 ③スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関との連携による教育相談の充実を図る。 | ①③部会を毎月実施し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを含めた関係者間で情報共有し、具体的な支援につなげることができたか。 ②毎月実施し、必要に応じて関係者間で情報共有し、具体的な支援につなげる事ができたか。 | | | | |
| | | ・安心・安全な学校生活の充実 | ①避難訓練等の体験的な活動を通して、自助・共助について考える機会の充実を図る。 ②校内ケガマップを作成、活用して、原因と対策について全校で共有する。 | ①②学校評価・保護者及び児童アンケートの関係する項目において、肯定的な回答の割合が95%以上となったか。 | | | | |
| 3 | 〈現状〉 ○令和4年度に引き続き、目指す児童の姿について「あいさつ」をキーワードに共有し、学校と保護者、地域が協働している。 〈課題〉 ○学校運営協議会にて共有した目指す児童の姿を、さらに家庭や地域に発信し、沼影小地区の多くの方々と共有し、取組の充実を図る必要がある。また、児童に育てたい力について、熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な取組につなげていく。 | ・保護者、地域との連携・協働の強化 | ①学校運営協議会やSSNの内容や具体的な活動について、学校HP等を活用して広く情報発信する。 ②下校時の見守り防犯ボランティアの拡充について広く周知して、新規協力者を募る。 | ①学校評価・保護者アンケートの関係する項目において、肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②見守り防犯ボランティアの拡充について周知して、新規協力者に依頼することができたか。 | | | | |
| | | ・あいさつあふれる沼影小地区に向けた取組 | ①学校運営協議会で策定したプランに基づき、学校と保護者、地域が協働した取組を行う。 ②小・中一貫関係校と連携して、あいさつあふれる沼影小地区に向けた取組を実施する。 | ①学校と保護者、地域が連携し、あいさつあふれる沼影小地区の実現に向けた取組を実施することができたか。 ②関係校と連携した取組を実施することができたか。 | | | | |
| 4 | 〈現状〉 ○教科等の学びを深めるツールとしての ICT 活用について、エバンジェリストを中心に研修を積み重ねている。 〈課題〉 ○ICT の活用は、引き続き、教科等の学びを深める活用について研修を積み重ねて授業改善につなげる必要がある。 | ・教職員の協働・協力体制の確立と指導力の向上 | ①各主任を中心とした組織的な対応を常とする体制づくりを図る。 ②校内で教科等の学びを深める ICT 活用の実践事例を共有し、授業改善につなげる。 | ①学校評価・教職員アンケートの関係する項目において、肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ②互いに、教科等の学びを深める ICT 活用の実践事例を共有する場を構築し、授業改善につなげる事ができたか。 | | | | |